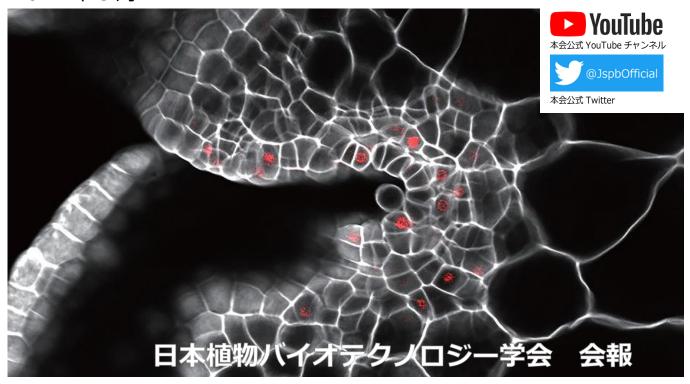
# 2022年3月



# Plant Biotechnology Vol.39 No.1 発行のご案内

特集号: Stem cell reformation in plants

Editorial

## From the Editors

Koh Aoki

# Preface

Preface to the special issue "Stem cell reformation in plants"

Akihiko Hiroguchi, Kohei Nakamura, Tomomichi Fujita.

Akira Iwase, Masaaki Umeda

# **Original Paper**

Migration of prospindle before the first asymmetric division in germinating spore of Marchantia polymorpha

Yuuki Sakai, Takumi Higaki, Kimitsune Ishizaki, Ryuichi Nishihama, Takayuki Kohchi, Seiichiro Hasezawa

苔類ゼニゴケ(Marchantia polymorpha)の胞子は十分な光のもとでは発芽に伴って非対称分裂し発生運命の異なる二つの娘細胞を生じる。本研究では、発芽前の胞子で核を包む二極性の前期紡錘体と呼ばれる微小管構造が細胞中央から辺縁部へと移動することを見出し、非対称分裂の初期過程を明らかにした。

### Note

<u>Abscisic acid switches cell division modes of asymmetric cell division and symmetric cell division in stem cells of protonemal filaments in the moss *Physcomitrium patens*</u>

コケ植物ヒメツリガネゴケの原糸体は先端にある1つの頂端細胞が,不等分裂して増える幹細胞である.本論文では,アブシジン酸処理することで原糸体に新たに誘導される Brood cell と呼ばれるストレス耐性の細胞が,新しく幹細胞として振る舞うことを見出した.またこの幹細胞は不等分裂ではなく等分裂することを見出した.周囲の環境変動に応じて新たな幹細胞を新生する仕組みをコケ植物は備えている.

# 目次

Plant Biotechnology Vol.39 No.1発行のご案内1第 39 回大会(堺)のご案内3第 40 回以降の大会について5第 2 回産学官協力セミナーのご案内6学会からのお知らせ6特別賛助会員紹介9

## 今号のトップ写真

Plant Biotechnology 誌最新号の表紙写真から。被子植物以外での機能が不詳であったグリコーゲン合成酵素キナーゼ 3 (GSK3) を発現させる「proMpE2F: XVE >> MpGSK-L」をゼニゴケに導入し、分裂領域( $\beta$ -エストラジオールなし)を EdU アッセイ(赤)および細胞壁染色(白)により可視化した。本文はこちらから。

◆ 学会ホームページから会報をダウ ンロードするためのパスワード 「jspbk2021」

1



Α GSK3-like kinase coordinates the balance between cell proliferation differentiation Marchantia polymorpha Glycogen synthase kinase 3 (GSK3) family has important roles in regulating cell proliferation and differentiation during various developmental processes in angiosperms. However, in the plant lineages except angiosperms, the function of GSK3s especially in the cell differentiation processes remains unknown. model bryophyte Marchantia polymorpha has a single GSK3-like kinase MpGSK. Overexpression of MpGSK reduced the size of the meristem region, consists of the stem cell zone (SCZ) including apical cells, and the dividing and differentiating cell zone (DDCZ). Conversely, Mpgsk loss-of-function mutants exhibited an undifferentiated cell mass phenotype. These findings indicate that MpGSK is involved in the regulation of cell differentiation. The cover shows the meristem region of M. polymorpha (proMpE2F:XVE>>MpGSK-L-1 cultured without βestradiol) visualized by EdU assay (red) and cell wall staining (white). (See Furuya et al., pp. 65-72)

Photographed by Tomoyuki Furuya, Kobe University (Kobe, Japan) using the **FLUOVIEW** FV1000 (Olympus)

### Reviews

Illuminating the molecular mechanisms underlying shoot apical meristem homeostasis in

Akie Shimotohno

動物とは異なり,植物は胚発生後でも器官を生み出す柔軟性を有する.このような 特性は,メリステムと呼ばれる幹細胞を含む分裂組織の長寿命性に依るところが大 きい. 本論文では、茎頂メリステムの維持機構に関する最新の知見を紹介するとと もに, どのような外的・内的シグナルによって制御されているのかについても議論 した.

### Pericycle cell division competence underlies various developmental programs

Ye Zhang, Masaaki Umeda, Tatsuo Kakimoto

Pericycle cell's proliferation activity underlies root branching, secondary growth, and tissue regeneration. This work reviews the molecular pathways of the various pericycle-originated developmental programs and discusses the molecular basis of pericycle cell's division competence.

#### **Original Papers**

Expression of the auxin biosynthetic genes YUCCA1 and YUCCA4 is dependent on the boundary regulators CUP-SHAPED COTYLEDON genes in the Arabidopsis thaliana

Mizuki Yamada, Shunsuke Tanaka, Tatsuya Miyazaki, Mitsuhiro Aida

......37 本研究では子葉境界部形成の制御遺伝子 CUC によるオーキシン生合成遺伝子の発現 制御について解析を行った、オーキシン生合成遺伝子のうち、子葉境界部で発現す る YUC1, YUC4 遺伝子の発現量は cuc 二重変異体胚において減少していた. 一方で 主要な CUC 下流遺伝子 STM の機能欠損は YUC1 の発現を減少させなかった. 以上 から, 胚発生期のオーキシン生合成制御に CUC が重要な役割を果たしていることが 示唆された.

# Enhancement of shoot regeneration by treatment with inhibitors of auxin biosynthesis and transport during callus induction in tissue culture of Arabidopsis thaliana

Iwai Ohbayashi, Yuki Sakamoto, Hitomi Kuwae, Hiroyuki Kasahara, Munetaka Sugiyama

シロイヌナズナの 2 段階シュート再生系において, カルス誘導時に IAA 生合成阻害 剤ないし極性輸送阻害剤で処理すると,シュート再生能が高まることを見出した. このシュート再生能の昂進は,内生オーキシン環境の乱れに起因し,根端分裂組織 関連遺伝子の発現上昇が関わっていると考えられた.

### 4-Phenylbutyric acid promotes plant regeneration as an auxin by being converted to phenylacetic acid via an IBR3-independent pathway

Akira Iwase, Arika Takebayashi, Yuki Aoi, David S Favero, Shunsuke Watanabe, Mitsunori Seo, Hiroyuki Kasahara, Keiko Sugimoto

植物の幹細胞新生に影響を与えるヒストン修飾関連阻害剤のスクリーニングから、 4-フェニル酪酸(4PBA)がシロイヌナズナでカルス化や組織の再分化を促進すること を発見した. 種々の検討から, 4PBA は植物体内でペルオキシソームによる β 酸化非 依存的にフェニル酢酸(PAA)に変換されることでオーキシン応答を活性化しているこ とが示唆された、4PBA は動物分野で HDAC 阻害剤として用いられるが,処理した シロイヌナズナではヒストンのアセチル化レベルの変化は Western Blotting ではほ

### Competitive action between Brassinosteroid and tracheary element differentiation inhibitory factor in controlling xylem cell differentiation

Yuki Kondo

とんど検出されなかった.

維管束発生において木部分化を抑制するホルモン・TDIF と促進するホルモン・ブラ シノステロイド(BR)が知られている.本論文においては,維管束分化誘導系 VISUAL と発光レポーターによる運命定量法を用いて木部分化における TDIF と BR の競合的な関係性を明らかにし、細胞分化制御におけるロバストな制御機構を示し た.

# A glycogen synthase kinase 3-like kinase MpGSK regulates cell differentiation in Marchantia polymorpha

Tomoyuki Furuya, Ryuichi Nishihama, Kimitsune Ishizaki, Takayuki Kohchi, Hiroo Fukuda, Yuki Kondo

Glycogen synthase kinase 3 (GSK3)-like kinase は被子植物の発生を多面的に制御する. 本研究では、主に逆遺伝学的な解析から、コケ植物ゼニゴケの GSK3-like kinase MpGSK が細胞分化と増殖のバランスを制御し、発生に重要なことを明らかに

### Brassinosteroids are required for efficient root tip regeneration in Arabidopsis

Naoki Takahashi, Masaaki Umeda

.73

多くの植物は高い再生能力を持っており、組織を切除したとしても完全に再生されることが知られている。しかし、植物がどのように効率的に組織再生を可能にしているのかは未だ不明な点が多い。本論文では、植物ホルモンのブラシノステロイドがシロイヌナズナの根端切除後の組織再生過程に関わっていることが明らかになった。

#### Review

# **E**olution of root nodule symbiosis: Focusing on the transcriptional regulation from the genomic point of view

Kai Battenberg, Makoto Hayashi

. .79

マメ科などに見られる植物と窒素固定細菌との根粒共生が分子系統学的に単一起源である可能性が提唱されてから、その進化がいつ・どのように起こったかについて議論されてきた。本総説では根粒共生の獲得・喪失における複数の仮説を取り上げ、これらが根粒共生の進化を紐解いた経緯を示す。さらに、根粒共生の獲得につながる遺伝的な変化を明らかにすることで、根粒共生の進化についての理解が深まる可能性について議論する。

# 第39回大会(堺)のご案内

日本植物バイオテクノロジー学会第39回大会は、大阪公立大学(2022年4月開校)小泉望先生を大会実行委員長として2022年9月11日(日)~13日(火)の日程で大阪公立大学中百舌鳥キャンパス(大阪府堺市)にて開催する運びとなりました(オンサイト・オンラインハイブリッド方式)。また、9月10日(土)にはゲノム編集に関する国際会議も大阪国際会議場で開催する予定です。多くの方々の参加をお待ちしております。

### 1) 会期: 2022年9月11日(日)~13日(火)

9月11日(日)市民公開シンポジウム、代議員総会

9月12日(月)一般講演・シンポジウム、総会・受賞式・受賞講演、懇親会

9月13日(火)一般講演・シンポジウム

※ 9月10日(土) にゲノム編集に関する国際会議を大阪国際会議場で開催予定

## 2) 開催方式: オンサイト・オンラインハイブリッド

▶ 参加のみの場合

オンサイトでもオンラインでも参加頂けます。

### ▶ 発表される場合

原則オンサイトでお願いします。オンラインでの視聴は可能です。

※小さなお子さんあるいは要介護者がおられ、開催地に来るのが困難な方、海外 在住の方、非会員のシンポジストでオンライン発表を希望する方に関しまして はオンライン発表を可能とします。

### 3) 大会参加登録および講演申込受付期限:

一般講演申込 2022 年 4 月 8 日 (金) ~ **6 月 10 日 (金)** (予定)

事前参加登録 2022 年 4 月 8 日(金) ~ 8 月 12 日 (金)(プログラム冊子を送付します) ~8月 31 日 (水)(プログラム冊子を送付できません)

大会参加に関する詳細な情報は4月1日(金)に大会ホームページに公開します。その後も随時更新しますので、ご確認をお願いいたします。

# ゲノム編集国際会議

大会前日となる 9 月 10 日(土) に、江面 浩 先生(筑波大学)を オーガナイザーとしてゲノム編集 に関する国際会議を大阪国際会議 場で開催する予定です。詳細は 追ってお知らせいたします。

### 学生優秀発表賞の創設について

第 39 回大会より、一般発表における学生の優秀な発表に対して「日本植物バイオテクノロジー学会学生優秀発表賞」を授与しこれを顕彰します。エントリー資格は大会で発表を行う高校生、大学生、大学院生です。発表内容に即して複数の審査分野を設定し、発表内容、質疑応答を含むプレゼンテーション能力について、審査分野ごとに複数の理事、代議員及び座長等の投票により対象者の 10%程度を選考します。学生優秀発表賞に選出された演題並びに発表者は、大会終了後、会報・学会ホームページで公表し、賞状を送付します。講演申込み時にエントリーが必要になりますのでご注意ください。

### 4) 参加費

登録区分	大会参加費		懇親会参加費	
	事前登録 (8月31日まで)	当日登録 (オンサイトのみ)	事前登録 (8月31日まで)	当日登録 (オンサイトのみ)
一般会員	10,000円	12,000円	8,000円	9,000円
学生会員	3,000円	5,000円	5,000円	6,000円
非会員	12,000円	14,000円	9,000円	10,000円

※一般会員非会員の参加費を、これまでより高く設定しました。ハイブリッド開催のためご理解の程よろしくお願いします。学生会員の参加費は低く設定しました。学生年会費の値下げ、学生優秀発表賞と合わせて多数の参加をお待ちしています。

# ランチョンセミナー

「第5回・科学技術系専門職大規模アンケートの解析から見えてきたこと(仮)」

オーガナイザー:日本植物バイオ テクノロジー学会キャリア支援・ 男女共同参画委員会

(委員長 柳川 由紀(千葉大))

講演者: 須藤 雄気 (岡山大) (一社) 男女共同参画学協会連絡 会・大規模アンケート解析 WG (第20期幹事会・生物物理学会)

### 5) シンポジウム

- 1. 「成功例から学ぶ組織培養・形質転換系を自ら構築するためのキーポイント」2. 「植物機能の活用・向上に向けた DX 最前線」3. 「植物フェノタイピングに向けたデジタルテクノロジー」4. 「藻類の多様性研究の持続的社会への貢献」5. 「植物バイオテクノロジー×合成生物学」を予定しています。
- ① 「成功例から学ぶ組織培養・形質転換系を自ら構築するためのキーポイント」 オーガナイザー:七里 吉彦(森林研究・整備機構)、安本 周平(大阪大学)

次世代シーケンス技術により植物のゲノム配列解析が容易になり、有用形質に関与する遺伝子を標的としたデザイン育種は、ゲノム編集技術の急速な発展によりすでに現実のものとなっている。そのような中、それらの基盤である組織培養・形質転換技術の重要性はますます高まっている。本シンポジウムでは、様々な植物の組織培養や形質転換の成功例を、論文からはみえにくいノウハウやコツを交えつつ紹介し、自ら系を構築するための一助となるような場にしたい。

# 講演者:

須田 啓(埼玉大学)「非モデル植物ハエトリソウを形質転換する ~その条件検討 と手法の構築~」

島田 浩章 (東京理科大学)「形質転換/ゲノム編集ジャガイモ・トマト作出への新戦略」 大坪 憲弘 (京都府立大学) 「ユーストマの組織培養・形質転換系の効率化 -効率 を左右するさまざまな要因について-」

荻田 信二郎(県立広島大学)「植物組織培養成功のための条件設定のコツ」

②「植物機能の活用・向上に向けた DX 最前線」

オーガナイザー:矢野健太郎(明治大学)

大規模かつ高品質なオミックス情報と文献情報を精密に解析することにより、植物・農作物の生産機能の向上に資する遺伝子や化合物を高効率に同定できる。本シンポジウムでは、農作物やモデル植物のフェノーム、ゲノム、トランスクリプトームなどの大規模オミックス情報と高信頼度知識情報を高効率にハンドリングする最先端 DX 手法について紹介し、植物の機能向上に向けた今後の研究の展開について議論する。

### 講演者

中村 保一(国立遺伝学研究所)「植物の機能向上 DX のためのとりくみ紹介」 矢野 健太郎(明治大学)「AI テキストマイニングによる遺伝子の知識情報とオミックス 情報の統合化」

川原 善浩(農研機構)「イネ有用遺伝子情報のカタログ構築とその活用について」 郭 威(東京大学)「AI を活用した植物フェノタイピング」

門田 有希(岡山大学)「六倍体サツマイモにおける線虫抵抗性遺伝子の同定と育種 基盤技術の構築!

#### ③「植物フェノタイピングに向けたデジタルテクノロジー」

オーガナイザー:稲田のりこ(大阪公立大学)、内海ゆづ子(大阪公立大学)

陸上植物は、細い枝や薄い葉がいくつも繰り返されるといった複雑な形状をしており、その複雑さ故に形状の計測や表現が困難であった。しかし近年、機械学習や画像認識技術を中心としたデジタルテクノロジーの発達により、植物形状の表現や計測技術が確立されつつある。本シンポジウムでは最新の植物形状の計測技術を紹介し、今後、これらの技術がどのように発展するかについて議論する。

#### 講演者:

宇賀 優作(農研機構)「環境レジリエント作物の創出をめざした根系非破壊計測プラットホームの開発」

野下 浩司(九州大学)「さまざまな形態記述子によるモデルベース植物フェノタイピン グ」

内海 ゆづ子(大阪公立大学)「画像認識技術を用いた植物形質計測」 福田 弘和(大阪公立大学)「植物概日時計の位相応答場技術」 大倉 史生(大阪大学)「画像からの枝葉『構造』の復元|

### ④「藻類の多様性研究の持続的社会への貢献」

オーガナイザー:太田大策(大阪公立大学)、伊福健太郎(京都大学)

微細藻類は、生産性が高く、食糧利用と競合しないことから、次世代のバイオ資源として期待・研究されてきた。そして近年のゲノム解読や遺伝子組換え技術の進展により、多種多様な藻類の利用可能性が広がっている。本シンポジウムでは、微細藻類による物質生産の社会実装に向けて、応用と基礎研究の両面から進捗を紹介する。

#### 講演者:

星野 孝仁(株式会社ちとせ研究所)「微細藻類産業の構築に向けたちとせグループの取り組み:MATSURIプロジェクト」

蓮沼 誠久(神戸大学)「シアノバクテリアや微細藻類を利用した CO2 からの直接物質生 産し

廣田 隆一(広島大学)「遺伝子組換え微細藻類実用化のためのバイオセーフティー 技術開発 〜リン代謝系の改変による生物学的封じ込め〜」

宮城島 進也(国立遺伝学研究所)「硫酸酸性温泉に生息するイデユコゴメ類の産業利用に向けた開発」

伊福 健太郎(京都大学)「有用物質生産に向けた実用藻類ツノケイソウの光合成機能の最適化!

### ⑤「植物バイオテクノロジー×合成生物学」

オーガナイザー: 光田 展隆(産業技術総合研究所)、村中 俊哉(大阪大学)

遺伝子工学や細胞操作技術の発展により、典型的な「遺伝子組換え生物」の概念を超えるような新しい性質を持った生物が作られ始めている。これまでは微生物での試みが中心であったが、いよいよ高等植物でもゲノムをデザインする時代に入りつつある。本シンポジウムではこのような「合成生物学」およびその考え方を植物バイオテクノロジー分野に取り入れようとしている研究に焦点をあて、最新の成果の共有と今後の展望を議論したい。

### 講演者:

村中 俊哉 (大阪大学) 「はじめに」

南博道(石川県立大学)「薬用成分の大腸菌での生産」

棟方 涼介(京都大学)「合成生物学を用いた植物プレニル化ポリフェノールの微生 物生産」

山崎 真巳(千葉大学)「ゲノム構造からアルカロイド生産機構を探る」

平井 優美(理化学研究所)「代謝経路の再構築による機能性植物の創生」

松永 幸大(東京大学)「合成生物学的手法を用いた動植物融合細胞の作製」

光田 展隆(産業技術総合研究所)「遺伝子操作による人工細胞壁の構築」・「おわりに」

### 6) 市民公開シンポジウム

市民公開シンポジウムもオンサイト・オンラインハイブリッド方式での開催を予定しています。今回のテーマは「植物バイオがもたらすフード&アグリテック・イノベーション」です。

# 【第1部】 講演

穴井 豊昭(九州大学)「代替肉の現状と原料となるダイズに望まれている特性」 關 光(大阪大学)「植物の有用成分を酵母でつくる」

横井 修司(大阪公立大学)「SDGs を基盤とした都市型農業への挑戦」

山口 夕 (大阪公立大学) 「完全人工光型植物工場の役割と期待」

【第2部】 質問タイム

# 大会実行委員会事務局

大阪府立大学生命環境科学研究科内 E-mail:

jspb39@plant.osakafu-u.ac.jp 電話:072-254-9424 大会実行委員長 小泉 望

# 問い合わせ先

第 39 回日本植物バイオテクノロ ジー学会(堺)大会 ヘルプデスク

(株) 中西印刷

E-mail:

jspb39-desk@nacos.com

# 第40回以降の大会について

第40回大会(2023年)は理化学研究所平井優美先生を大会実行委員長として、第41回大会(2024年)は東北大学中山亨先生を大会実行委員長として開催予定です。ご協力いただきます先生方に深く感謝申し上げます。

# 第2回産学官協力セミナーのお知らせ

### 「イノベーション創出強化研究推進事業勉強会」

産業界・大学/国研・官公庁の連携を一層推進するために、植物バイオテクノロジー学会では、産学官協力セミナーを年2回開催しております。第2回は、我が国の農林水産・食品分野の競争力を強化し飛躍的に成長させていく観点からの提案公募型の研究事業「イノベーション創出強化研究推進事業」(生物系特定産業技術研究支援センター)に採択された各研究機関の方々に講演していただきます。皆さん、奮ってご参加ください(参加費無料)。

セミナーへの参加を希望される方は、<u>登録サイト(Google フォーム)</u>から参加登録をお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScA9rVHntKJbsUqvtfF0nsOJMsybbP\_Fdldk7ad9S3V0R9d5Q/viewform

日時: 2022年6月3日(金) 13:30~16:30 Zoom オンライン開催

13:30~13:35 開会の挨拶

(会長:小泉望)

 $13:35\sim14:05$  我が国の農林水産・食品分野の競争力強化のためのイノベーション創出強化研究推進事業の概要

(生物系特定産業技術研究支援センター: 竹中 重仁)

14:05~14:35 画期的機能を持つ接ぎ木システムの実用化と接ぎ木効率を向上させる接ぎ木促進剤の開発

(名古屋大学:白武 勝裕)

【休憩】

14:45~15:15 高精度フェノタイピングに基づくイチゴ培地レス栽培技術の確立

(豊橋技術科学大学:高山 弘太郎)

15:15~15:45 成長に優れた無花粉スギ苗を短期間で作出・普及する技術の開発

(新潟大学:森口喜成)

15:45~16:25 フリートーク (産学官連携担当:加藤 晃) 16:25~16:30 終わりに (幹事長:光田 展隆)

# 学会からのお知らせ

### ◆ 会費の改定

本会の学生会員会費が他学会に較べて高いことや、本会が事業を持続的に発展させる財政的基盤が脆弱であることを鑑み、学生会員会費の値下げと一般会員会費の値上げを臨時代議員総会に提案し承認されました。つきましては 2022 年度から、一般会員の年会費が 8000 円に(2000 円の値上げ)、学生会員の年会費が 3000 円に(1500 円の値下げ)改定されます。なにとぞご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。 賛助会員、特別賛助会員の会費に変更はありません。なお、同時に会費のクレジットカード決済を導入いたします。

### ◆ Plant Biotechnology 誌掲載料の改定

Plant Biotechnology 誌はオープンアクセス誌としては破格に安い掲載料となっており、収支改善のために近日中に掲載料等を下記のように変更することにいたしました。なにとぞご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

ページチャージ:規定ページまで4万円(レギュラー、総説)、

または3万円(ショートコミュニケーション、ノート)

(現在は5千円/ページ、総説10ページ、レギュラー6ページ、ショート4ページまで)

オーバーページチャージ:現行通り(1万5千円/ページ)

非会員追加チャージ:4万円(現在は3万円)

### ◆ 日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について

日本学術振興会から育志賞受賞候補者の推薦依頼が来ております。本賞は上皇陛下の天皇ご即位 20 年にあたり社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業として、上皇陛下からのご下賜金を資として創設されました。推薦にあたっては論文等の業績のみにとらわれず将来我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な者、経済的に困難な状況や研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして主体的に研究を進めている者など多様な観点から検討するよう依頼されています。

対象者: 我が国の大学院博士課程学生(海外からの留学生を含む)であって、令和4年4月1日において34歳未満の者で、令和4年5月1日において次のいずれかに該当する者

- 1) 区分制の博士後期課程に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程3年次以上の年次に在学する者
- 3)後期3年のみの博士課程に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の4年制博士課程に在学する者

締切り: 令和4年5月31日17時

授賞:16 名程度を選考し、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金 110 万円を贈呈

大学や学術団体の推薦が必要です。推薦を希望される方は幹事長(光田 展隆: nobutaka.mitsuda@aist.qo.jp) にご相談ください。

### ◆ 日仏共同提案募集

科学技術振興機構(JST)は、戦略的創造研究推進事業 CREST の 2022 年度の公募において、フランス国立研究機構(ANR)と連携し、以下の 2 研究領域で日仏共同提案を募集します。採択された場合、日本側グループは JST(CREST)から、フランス側グループは ANR から、それぞれ支援を受けます。

- ・「信頼される AI システムを支える基盤技術」(研究総括:相澤彰子)
- ・「未踏探索空間における革新的物質の開発」(研究総括:北川宏)

応募方法 : JST と ANR の両機関に共同研究提案書(英語、CREST-ANR 共通書式)を申請。

締切り: ANR 側: 2022 年 5 月 9 日(月) 10:00 中央ヨーロッパ時間(夏時間)

詳細 URL: [CREST の募集 HP]

https://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/teian.html [ANR の募集 HP] https://anr.fr/crest-2022/

### ◆ 摂南大学農学研究科(農学部)専任教員の公募

摂南大学では、2024 年 4 月に新たに「農学研究科農学専攻」を開設すべく、鋭意 準備を進めております(2023 年 3 月、 文科省設置認可申請予定)。このたび、農 学研究科(農学部)におきまして、専任教員を公募することとなりました。

応募締切:2022年4月13日(水) 着任時期:2024年4月1日(水)

詳細は、下記の教員公募情報をご覧ください。 http://www.setsunan.ac.jp/koubo/

### ◆ 東北大学大学院農学研究科(環境適応植物工学分野)助教 公募

東北大学大学院農学研究科では生物生産科学専攻 植物生命科学講座 環境適応植物工学分野 助教(任期付)候補者について、下記の通り公募を行うことになりました。

- 1. 職名・人員:助教1人
- 2. 採用形態:任期5年(審査を経て、一回に限り5年の再任あり)
- 3. 採用予定年月日: 令和4年10月1日
- 4. 公募締め切り:令和4年5月23日(月)必着

詳細は下記 URL をご覧ください.

https://www.agri.tohoku.ac.jp/jp/news/news/detail/20220323/kanteki.pdf

### 日本値加バイオテクノロジー学会

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

(株) 国際文献社内 TEL: 03-6824-9378 FAX: 03-5227-8631 jspb-post@bunken.co.jp

ホームページ:

https://www.jspb.jp/

### 2020-2021FY 役員

#### 理事

会長:小泉望(大阪府大) 幹事長:光田展隆(産総研)

編集委員長:

青木 考(大阪府大)

会計理事:

有泉 亨(筑波大)

理事(広報担当):

児玉 豊 (宇都宮大)

理事(国際化担当): 山崎 真巳(千葉大)

理事(キャリア支援・男女共

同参画担当):

柳川由紀(千葉大)

理事(産学官連携担当): 加藤 晃(奈良先端大)

理事(40周年記念担当): 増村 威宏(京都府大)

# 監事

矢崎 一史(京大) 吉田 薫(東大)

### ◆ IAPB 会費納入について

International Association for Plant Biotechnology (IAPB)に入会(継続を含む)を希望される場合は、なるべく早く 2022 年度会費 4,000 円 を以下のいずれかの口座にお振込みください。

●三菱 UFJ 銀行 江戸川橋支店

普通 0129208

口座名義:一般社団法人 日本植物バイオテクノロジー学会

●郵便振替口座 00170-2-362872

※他の金融機関から振り込む場合※

ゆうちょ銀行 019 (ゼロイチキュウ) 店 当座 0362872 加入者名: 一般社団法人 日本植物バイオテクノロジー学会

なお、IAPB 会費 (25 USD) および送金手数料を差し引いた残額は日本植物バイオテクノロジー学会の会計に組み込まれますので、予めご了承ください。

また、入会者の名簿(氏名・所属)を IAPB に送付いたしますので、会費を入金された 方は、ご氏名・ご所属機関名の英語表記をマイページにて登録してください。

#### ◆ 「形質転換植物デザイン研究拠点」共同利用・共同研究課題追加募集

令和4年度国立大学法人筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」共同利用・共同研究課題の追加募集を行います。同拠点は、平成22年度より文部科学省共同利用・共同研究拠点事業の認定を受け、植物に関する基礎研究と遺伝子組換え植物の開発に関する基盤技術を融合する形質転換植物デザイン拠点事業を展開し、関連分野間の連携構築や実用化に向けてボトルネックとされる形質転換技術に関する基礎研究、形質転換植物のフィールド研究の実践および環境リスク評価研究を一気通貫型で実施するため、関連研究コミュニティーから共同利用・共同研究課題を公募し、採択・実施しております。予算の範囲に若干の余裕があり、若手の支援や科研費が採択されなかった方への支援も考慮して、追加で共同利用・共同研究課題を追加募集することとなりました。つきましては、下記の情報を確認いただき応募くださるよう案内いたします。

【公募 HP】https://gene.t-pirc.tsukuba.ac.jp/joint/recruitment/

### ★ 若手研究者の雇用に関するアンケート(男女共同参画連絡会より)

本アンケートは研究者の雇用問題を数値化し、国に要望するという目的で、科学技術分野の研究者で、現在、任期付き職、非常勤職、無職である方、あるいは、過去に、任期付き職、非常勤職、無職であった経験のある方を対象として行います。該当する方の回答をお願いいたします(4月30日まで)。

https://forms.gle/YmSkgdFvQA9iKZFZ7

### ◆ 次期執行部の紹介

2021年12月から1月にかけて代議員による次期会長候補者選挙が実施され吉田 薫先生(東京大学)が選出されました。次期執行部の予定メンバーは下記となります。

会長:吉田薫(東大) 幹事長:平井優美(理研) 編集長:梅田正明(奈良先端大) 副編集長:山口雅利(埼玉大) 会計:吉松嘉代(医薬基盤研) 広報:岩瀬哲(理研)

産学官連携:加藤晃(奈良先端大)

国際化:有村 慎一(東大) 男女:三浦 謙治(筑波大) 庶務:榊原 圭子(理研) 監事:光田 展隆(産総研) 矢崎 一史(京大) 特別賛助会員 9

本会の運営にご協力賜り感謝申し上げます。

- ◆ (株)カネカ
- ◆ キリン (株)
- ◆ クミアイ化学工業(株)生物科学研究所
- ◆ 神戸天然物化学(株)
- **◆ コルテバ・アグリサイエンス日本(株)**
- ◆ 三栄源エフ・エフ・アイ(株)
- **◆ サントリーグローバルイノベーションセンター(株) 研究部**
- ◆ シンジェンタ ジャパン(株)
- ◆ **住友化学(株) 健康・農業関**連事業研究所
- ◆ (株) 竹中工務店 技術研究所
- ◆ **(株)日本医化器械製作所**
- **◆ バイエル クロップサイエ**ンス (株)
- ◆ 北海道三井化学(株) ライフサイエンスセンター
- ◆ (株) UniBio
- ◆ 英文校正・校閲-エナゴ